

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																										
下関看護 リハビリテーション学校	平成16年3月26日	興津 貴則	〒750-0025 山口県下関市竹崎町3-4-17 (電話) 03-6734-2939																										
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																										
学校法人福岡保健学院	平成2年3月20日	蒲池 昭子	〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘2-1-12 (電話) 092-607-0053																										
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																									
医療	医療専門課程	理学療法学科	平成19年文部科学省 告示第20号																										
学科の目的	理学療法士として、必要な知識、技術及び豊かな人間性と職業倫理を習得し、専門職としての自覚と誇りを持ち、社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。																												
認定年月日	平成30年2月27日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は単位 数	講義	演習	実習	実験																							
3	年 昼間	2745	1385	187	825	348																							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																								
240	187		13		13																								
学期制度	<p>■前期: 4月1日 ~ 9月30日</p> <p>■後期: 10月1日 ~ 3月31日</p>			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、実習に必要な時間の出席状況と当該科目の評価により行う。 ・授業科目的評価はA・B・C・Dの4段階とし、C以上を合格とする。 																								
長期休み	<p>■夏 季: 平成28年8月11日~9月3日</p> <p>■冬 季: 平成28年12月29日~平成29年1月4日</p> <p>■春 季: 平成29年3月5日~3月25日</p>			卒業・進級 条件	<p>・履修すべき科目全てにおいて単位取得の認定をうけたものについてには、学校長が卒業を認定する</p>																								
学修支援等	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>クラス担任、教務部長による面談等</p>			課外活動	<p>■課外活動の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動などの課外活動は無し。 ・教科外活動については、カンボジア研修旅行、学校間交流会、地域の清掃活動、市内マラソン大会ボランティアサポート、市内開催祭り参加 <p>■サークル活動: 有</p>																								
就職等の状況※2	<p>■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 病院、医療施設、福祉施設等</p> <p>■就職指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連校と合同で就職説明会を開催、併せて学校独自でも就職説明会を2回開催 ・履歴書記入や就職面接に対応した特別講義開催 <table border="1"> <tr> <td>■卒業者数</td><td>75</td><td>人</td></tr> <tr> <td>■就職希望者数</td><td>74</td><td>人</td></tr> <tr> <td>■就職者数</td><td>74</td><td>人</td></tr> <tr> <td>■就職率</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td><td>98.6</td><td>%</td></tr> </table> <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学進学者数: 1人 <p>(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)</p>			■卒業者数	75	人	■就職希望者数	74	人	■就職者数	74	人	■就職率	100	%	■卒業者に占める就職者の割合	98.6	%	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士国家試験</td> <td>②</td> <td>75人</td> <td>75人</td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士国家試験	②	75人	75人
■卒業者数	75	人																											
■就職希望者数	74	人																											
■就職者数	74	人																											
■就職率	100	%																											
■卒業者に占める就職者の割合	98.6	%																											
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
理学療法士国家試験	②	75人	75人																										
中途退学の現状	<p>■中途退学者 12 名</p> <p>平成28年4月1日時点において、在学者216名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者204名 (平成29年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路変更 <p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任による面談等のフォロー、学校行事を通してリフレッシュを図る・希望者にはスクールカウンセラーを活用し早期対応 				■中退率 5.6 %																								
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>																												
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 http://jcore.or.jp/</p>																												
当該学科のホームページURL	http://www.shimonoseki-reha.jp/																												

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業における最新の技術・知識、必要とされる人材像等の意見を反映し授業内容等の工夫をおこなうとともに、企業と連携し社会貢献できる人材育成を目指した臨床実習の環境・内容・指導方法等の工夫を行っていく。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

学校法人福岡保健学院として教育課程編成委員会を置き、学科の分化会を実施する。外部委員に加えて学科の責任者が内部委員として参加する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
田爪 正氣	学校法人 健康科学学園	平成28年4月1日～平成30年3月31日	②
末廣 小百合	社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
加藤 利沙	社会医療法人財団 池友会 新小文字病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
田中 比呂子	社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
羽野 琴美	社会医療法人財団 池友会 新行橋病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
島田 道子	一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
春口 幸太郎	社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
岩本 尚悟	社会医療法人財団 池友会 新小文字病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
池田 裕一	社会医療法人財団 池友会 新行橋病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
野村 晋広	一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
林田 大輔	一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
福永 晓	社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院	平成28年4月1日～平成29年3月31日【退任】	③
峰 剛樹	社会医療法人財団 池友会 香椎丘リハビリテーション病院	平成28年4月1日～平成29年3月31日【退任】	③
饗場 智暎	一般社団法人 巨樹の会 下関リハビリテーション病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
佐藤 稔	株式会社 シダー（福岡県作業療法士会理事）	平成28年4月1日～平成30年3月31日	①
穴井 翼	社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
清水 慎吾	社会医療法人財団 池友会 香椎丘リハビリテーション病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
花田 宗久	社会医療法人財団 池友会 香椎丘リハビリテーション病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
音地 亮	社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院 (福岡県理学療法士会理事)	平成28年4月1日～平成30年3月31日	①
山本 智子	福岡保健学院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
淀川 めぐみ	福岡保健学院 武雄看護リハビリテーション学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
田川 秀明	福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
中村 佳奈	福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
磯邊 恵理子	福岡保健学院 下関看護リハビリテーション学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
豊島 宇茂	福岡保健学院 八千代リハビリテーション学院	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
野田 佳奈恵	福岡保健学院 福岡看護専門学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
諫山 沢代	福岡保健学院 福岡水巻看護助産学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
山崎 圭	福岡保健学院 武雄看護リハビリテーション学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
御幡 瞳	福岡保健学院 福岡水巻看護助産学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
年2回 9月、3月

(開催日時)

第1回 平成28年9月8日 14:00～16:00
第2回 平成28年12月2日 14:00～16:00
第3回 平成29年3月29日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

外部委員より、臨床実習や新人教育の観点より、コミュニケーション能力や医療人としての資質に関する教育の必要性の問題が提起された。平成29年度より対人関係演習の時間数を増やし、臨床現場の見学や実習の機会を増やすとともに、医療福祉施設職員が授業参画することで臨床実習前に医療施設の現状を伝えるためシラバスの工夫を行った。今後は、より医療人としての資質を高めるため、看護学科・理学療法学科・作業療法学科と関係病院と連携し「チーム医療」を教授できるシステム構築を検討する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校法人福岡保健学院は、学校と医療・福祉業界が協力して、臨床現場で求められる人材を育成し業界に送り出してきた。特に、実習・演習に関しては業界と連携し、初年次より段階的に業界と連携しながら知識技術のみならず医療人としての倫理・態度の育成に力を入れている。また、授業内容においては、業界の最先端の技術知識について意見交換し適宜改変を行っている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1年次・2年次には対象者の理解と医療人としてのルールマナーを学ぶ基礎的な演習を実施し、3年次には、最前線の医療現場を経験し、卒業時に必要な知識技術及び自己研鑽できる人材育成を実習先と共に、指導及び評価を行っている。また、多くの業界現場の経験を得る目的で、課目外において任意で見学及び体験実習を受け入れていただけるよう整備を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
対人関係演習	接遇及びコミュニケーション力向上のため、施設における対象者の傾聴体験を行い、医療人としての基礎を養う。	株式会社シダー
生活機能演習	施設において対象者及び職員への情報収集を行い、対象者の生活場面の観察を行い、トップダウン評価及び治療を学習する。	老人保健施設コスモス通所リハビリテーション等 30施設
臨床実習	各疾患の評価及び治療プログラム立案及び治療までの一連の流れを経験し、理学療法士及び作業療法士の思考過程を学習する。	下関リハビリテーション病院 他11施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

医療の専門職として社会貢献できる人材育成のため、授業及び学生に対する指導力向上のため、教員に対し研修の参加・研究・学会発表に積極的に取り組むよう促している。具体的には、学校法人福岡保健学院主催の教育研修や関連施設と協力した臨床研修及び研究を行っている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

職能団体主催の学会及び研修会の参加。関連施設との合同学術研究大会への参加。関連施設における臨床研修(企業連携科目 臨床実習のため)。

②指導力の修得・向上のための研修等

各団体が主催している教育研究大会への参加及び発表。学校法人福岡保健学院主催の教育研修会2回(①学習成果の評価について②医学教育とアクティブラーニング)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

①専攻分野における学会研修会への参加及び発表 ②関連病院主催の合同学術研究大会への参加(年1回は必須参加)及び発表 ③関連病院主催の症例検討会等への参加(最新の知見を得る) ④関連病院での臨床研修の実施

②指導力の修得・向上のための研修等

①各団体主催の教育研究大会への参加及び研究発表 ②専攻分野の教員養成研修の参加(必須) ③法人主催の中央研修年2回(①生活行為向上マネジメント ②授業力向上のための研修(講師検討中))

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を通じ、教育活動及び学校運営を点検し、継続的に改善することで、社会の変化に対応できる学校組織を目指すとともに、情報公開により学校の透明性向上を図る。また、自己評価・学校関係者評価を行うことで、全教職員が学校の状況及び目標・方向性を共有し、教育活動及び学校運営の改善を円滑に推進する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①教育理念・目的・人材育成像の明確化 ②学生・保護者・学校関係者への周知 ③医療・福祉のニーズとの整合性
(2)学校運営	①事業計画の策定 ②運営組織・意思疎通機能の明確化 ③情報システム化による業務の効率化
(3)教育活動	①教育理念に沿った教育課程編成・実施方針の策定 ②実践教育の視点に立ったカリキュラム教授内容の工夫 ③医療・福祉実践教育の体系化 ④授業評価実施体制 ⑤教育力向上のための研修の実施
(4)学修成果	①就職率向上への努力 ②退学率・留年率低減の努力 ③国家試験合格率への努力 ④卒業生の状況を教育活動に反映
(5)学生支援	①学生相談及就職相談に関する体制整備 ②学生生活指導及び安全管理に関する体制整備 ③高校や保護者と連携した指導の取組
(6)教育環境	①教材及び教育環境改善の取組 ②臨床実習における環境改善の取組 ③防災に関する体制整備
(7)学生の受け入れ募集	①高等学校等への適切な情報提供 ②資格取得・就職状況等の適切な情報提供
(8)財務	①中長期的な学校の財務基盤の安定 ②予算・収支計画の妥当性 ③会計監査の適切な実施
(9)法令等の遵守	①法令・設置基準等の順守と適正な運営 ②個人情報保護対策
(10)社会貢献・地域貢献	①学校施設を活用した社会貢献・地域貢献 ②学生ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校運営におけるPDCAサイクルを確立し、質の高い教育を提供できる法人組織力を高めていく。学校関係者評価結果を活用した重点目標を作成し自己評価・学校関係者評価につなげていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所 属	任期	種別
阿部 正剛	福岡市市議会議員	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	地域委員
後藤 歩	済生会二日市病院 看護師	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	卒業生委員
松木 秀明	東海大学 看護学科 特任教授	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	有識者委員
新井 光男	首都大学東京 健康福祉学部 理学療法学科 教授	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	有識者委員
桑名 俊幸	福岡和白病院 医療連携室室長	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	企業等委員
山縣 みどり	福岡新水巻病院 看護部長	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 7月

URL:<http://www.shimonoseki-reha.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校全体の教育の質の保証・向上の観点から、以下の内容をHPで情報公開を行い、学校運営の透明性を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①校長名 ②所在地 ③連絡先 ④学校の沿革 ⑤学校の特色(教育活動・カリキュラム等) ⑥教育目標 ⑦運営方針 ⑧教育指導計画 ⑨学校行事計画
(2)各学科等の教育	①入学者選考の方針及び方法 ②定員数 ③教育課程 ④進級及び卒業要件 ⑤資格取得 ⑥卒業者数及び卒後の進路状況
(3)教職員	①教職員数 ②教職員の組織及び専門性

(4) キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育への取組状況 ②企業等との授業等の取組状況 ③就職支援の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事への取組状況 ②課外活動等の状況
(6) 学生の生活支援	①生活支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	①学生募集及び納付金の取り扱い ②就学支援の内容
(8) 学校の財務	①資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表
(9) 学校評価	①自己点検及び自己評価報告書 ②学校関係者評価による改善方策
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.shimonoseki-reha.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		授業時数	単位数	講義		演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を養う。また、リハビリテーション治療課程に関わる学習理論、動機付けを理解する。	1年前期	30	2	○		○			○	
○			倫理学	リハビリテーション理念に通じる人間の基本的人権及び生命倫理を理解する。医学領域における患者の権利、医療従事者の義務等の倫理を理解する基礎を養う。	1年前期	30	2	○		○			○	
○			社会福祉学	社会福祉の歴史を学び、リハビリテーションの理念について理解を深め、リハビリテーションチームの一員である社会福祉専門職の役割を知る。社会福祉の基礎知識を理解し、社会福祉政策を踏まえた支援の基礎を養う。	1年前期	30	2	○		○			○	
○			統計学	基礎的な統計処理を学習し、理学療法に必要な臨床研究の基礎を養う。	1年後期	30	2	○		○			○	
○			情報処理	PCの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究、レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を養う。	1年前期	30	2	△		○	○		○	
○			物理学	物体の運動を通じて物理現象を理解し、科学的な見方・考え方を身に付け、リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を養う。	1年前期	15	1	○		○			○	
○			文章構成	リハビリテーション医学に必要な情報収集や読解などの方法、論理的な文章表現を身に付ける。	1年前期	30	2	○		△	○		○	
○			医学英語	リハビリテーション医学英単語を学び、英語を使用した対象者への質問や指示説明を行う英会話を身に付ける。	1年前期	15	1	○		△	○		○	
○			解剖学Ⅰ	正常な人体の動物機能にかかわる骨・筋及び神経系の形態と構造を理解する。	1年前期	30	2	○		○			○	
○			解剖学Ⅱ	正常な人体における生物系機能並びに意識的感覚や精神機能にかかわる形態・構造を理解する。	1年後期	30	2	○		○			○	
○			機能解剖学	リハビリテーション評価に必要な人体触診のための基本的知識・技術を身に付ける。	1年前期	30	1	△		○	○		○	
○			機能解剖学演習	基本的な動作を行い、運動と筋の関わりを身に付けるための体表解剖触診の技術を身に付ける。	1年後期	30	1	△		○	○		○	

○		生理学 I	生理学の基礎である細胞生理を理解したうえで、人の生理学的（植物）機能を理解する。	1年前期	30	2	○			○		○	
○		生理学 II	情報の需要と処理、体の支持と運動など人の動物性機能を理解する。	1年後期	30	2	○			○		○	
○		運動生理学	人間が活動するために必要な諸要素や運動により生じる生体反応について理解する。	1年後期	30	2	○			○	○		
○		運動学 I	人体の支持と運動の概要を理解する。人体の基本的肢位及び関節運動について理解する。	1年前期	30	2	○			○	○		
○		運動学 II	四肢関節と体幹の構造と運動について理解を深め、人間の姿勢変換運動という複合的な運動を学習する。	1年後期	60	2	○			○	○		
○		人間発達学	人間の正常な運動及び精神の発達を理解するとともに、代表的な発達理論を理解する。	1年前期	30	2	○			○	○		
○		医学概論	医療倫理、健康と病気の概念、疾病の分類を学び病気の診断と治療の概要を理解する。	1年後期	30	2	○			○	○		
○		病理学概論	病因の枠組みを理解し、炎症・感染・免疫・血行障害・退行変化や腫瘍などの細胞変化の基本を理解する。	2年前期	30	2	○			○	○		
○		診断治療学	リハビリテーション評価・治療への応用方法論を考察するために、脳血管障害・骨折・呼吸循環器等代表的なリハビリテーション対象疾患の画像などの医学的診断を理解する。	3年前期	30	2	△	○		○	○		
○		整形外科学	整形外科領域のリハビリテーション対象疾患の疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2年前期	30	2	○			○	○		
○		内科学	内科領域におけるリハビリテーション対象疾患の疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2年前期	30	2	○			○	○		
○		神経内科学	神経内科領域におけるリハビリテーション対象疾患の疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2年前期	30	2	○			○	○		
○		臨床心理学	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法などの心理療法を理解する。	1年後期	30	2	○			○	○		
○		精神医学	精神疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。	1年後期	30	2	○			○	○		
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの理念、対象、実践課程の概要を理解する。またリハビリテーションが取り扱う障害の概念及びICFを理解する。	1年前期	15	1	○			○	○		
○		保健医療福祉制度論	生活問題と医療福祉制度論の関わりを理解し、リハビリテーション実践に関する関係法規や制度の仕組みについて理解を深める。	1年前期	15	1	○			○	○		
○		理学療法学概論	リハビリテーションにおける理学療法の位置づけ及び理学療法の歴史や法的根拠を認識しつつ、実践領域、過程、対象を学習する。	1年前期	30	2	○			○	○		

○	対人関係演習	対人関係の基本的態度を学び、医療福祉施設における対象者とのコミュニケーションを体験し、対人関係における自己課題を理解する。	1年後期	15	1	○	△	○	○	○	○
○	生活機能演習	医療福祉施設において、リハビリテーション対象者の生活場面にかかわり、専門的視点をもって対象者の生活機能を理解する。	2年後期	15	1	△	○	○	○	○	○
○	臨床運動学	理学療法を科学的に実施するために、正常の身体運動の分析と方法を理解する。さらに、異常の活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的に出来るようになることを目標とする。	2年後期	30	1	○		○	○		
○	臨床運動学演習	測定機器を用いて、客観的数据に基づいた身体運動における関節・筋活動の理解および運動に対する生理的反応を確認し理解する。	3年後期	15	1	△	○	○	○		
○	評価学概論	理学療法評価の概要を理解し、基本的評価の技術・態度を身に付ける。バイタルサイン、関節可動域評価法についての基本的技術を獲得する。	1年前期	30	1	△	○	○	○		
○	評価学演習Ⅰ	評価学概論にて学習した内容を踏まえ、人体の形態測定、運動及び感覚機能に関する評価項目を理解し、実施・記録できることを目標とする。	1年後期	60	2	△	○	○	○		
○	評価学演習Ⅱ	理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施・記録出来ることを目標とする。	2年前期	60	2	△	○	○	○		
○	運動療法学演習	基本的運動療法について方法、適応、禁忌およびリスク管理を理解し、安全にそして効果的に実施できることを目標とする。	1年後期	60	2	△	○	○	○		
○	物理療法学	種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施の手順について理解する。疾患に応じた適切な物理療法の選択ができる。	2年前期	30	1	○		○	○		
○	物理療法学演習	物理療法学で学んだ知識を実際の器具を用いながら実践し、種々の物理療法の効果について学ぶ。	2年後期	30	1	△	○	○	○		
○	日常生活活動学	日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、日常生活活動の概念、位置づけを学ぶ。	1年後期	30	1	△	○	○	○		
○	日常生活活動学演習Ⅰ	ADL評価の意義と代表的ADL検査方法を理解する。片麻痺のADL障害の特性と動作指導、援助方法を理解する。片麻痺の動作を体験し、その動作の観察と特徴を記録する。	2年前期	30	1	△	○	○	○		
○	日常生活活動学演習Ⅱ	関節リウマチ、大腿骨頸部骨折、頸髄損傷、パーキンソン病など代表的な疾患のADL障害の特徴を理解し、評価方法から指導及び支援方法を理解する。	2年後期	30	1	△	○	○	○		
○	義肢学	切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。	2年前期	30	1	○		○	○		
○	装具学	装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。	2年後期	30	1	○		○	○		

○		中枢系障害の理学療法学 I	脳血管障害の発生機序と障害像を把握する。また、病態から必要となる評価とその意味を理解し、治療・訓練へのアプローチなど理学療法実践における過程を理解する。	2年前期	60	2	○		○	○	
○		中枢系障害の理学療法学 II	中枢系障害の理学療法学 I にて学習した内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。	2年後期	60	2	○	△	○	○	
○		骨関節障害の理学療法学 I	骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。	2年前期	60	2	○		○	○	
○		骨関節障害の理学療法学 II	脊椎疾患・末梢神経損傷・脊髄損傷など代表的疾患の理学療法の流れを理解する。	2年後期	60	2	○		○	○	
○		内部障害の理学療法学 I	代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたりハビリテーションの流れ及び理学療法を理解する。	2年前期	60	2	○		○	○	
○		内部障害の理学療法学 II	呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたりハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	2年後期	60	2	○	△	○	○	
○		小児疾患の理学療法学	小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	2年後期	30	1	○		○	○	
○		理学療法学技術演習 I	骨関節疾患の症例を提示し、全体像を把握し問題点の抽出、目標設定、治療プログラム立案という一連の理学療法思考過程を経験する。	2年前期	60	2		○	○	○	
○		理学療法学技術演習 II	中枢神経系疾患および内部疾患の症例を提示し、全体像を把握し問題点の抽出、目標設定、治療プログラム立案という一連の理学療法思考過程を経験する。	2年後期	60	2		○	○	○	
○		理学療法学総合学習	臨床実習の経験を踏まえ、理学療法基礎専門・専門領域の知識統合を図り、理学療法士として有するべき最低限の知識・技術を習得する。	3年後期	30	2		○	○	○	
○		生活環境学	障害者、高齢者の地域生活支援方法として、社会制度の活用、福祉用具の適応、住環境の改善等整備が行える知識を身に付ける。	2年後期	30	2	○	△	○	○	
○		地域理学療法学演習	地域理学療法の理念、目的、概要について学び、地域リハビリテーションについての理解を深める。	3年前期	30	2	○	△	○	○	
○ ○ ○		臨床実習	学内で学んだ知識・技術を駆使し、臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力及び実践力を身に付ける。	3年	810	18		○		○	○
合計			57科目	2745単位時間（111単位）							

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
卒業要件：すべての授業科目の単位習得を認定されたもの				1学年の学期区分	2期
履修方法：講義・演習・実習により履修する				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成30年3月19日
(前回公表年月日:平成 年 月 日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
下関看護 リハビリテーション学校	平成16年3月26日	興津 貴則	〒750-0025 山口県下関市竹崎町3-4-17 (電話) 03-6734-2939																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人福岡保健学院	平成2年3月20日	蒲池 昭子	〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘2-1-12 (電話) 092-607-0053																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																														
医療	医療専門課程	看護学科(3年課程 全日制)	平成22年文部科学省 告示第152号	-																														
学科の目的	看護師として、必要な知識、技術及び豊かな人間性と職業倫理を習得し、専門職としての自覚と誇りを持ち、社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。																																	
認定年月日	平成30年2月27日																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技																											
3	昼間	3015	1980		1035																													
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	単位時間																												
120人	119人		16人		16人																													
学期制度	■前期: 4月1日 ~ 9月30日 ■後期: 10月1日 ~ 3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、実習に必要な時間の出席状況と当該科目の評価により行う。 ・授業科目の評価はA・B・C・Dの4段階とし、C以上を合格とする。 																													
長期休み	■夏 季: 平成28年8月1日~8月26日 ■冬 季: 平成28年12月26日~平成29年1月6日 ■春 季: 平成29年3月1日~3月31日			卒業・進級 条件	<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき科目全てにおいて単位取得の認定を受けたものについては、校長が卒業を認定する。 																													
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、教務部長による面談等			課外活動	<p>■課外活動の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動などの課外活動は無し。 ・教科外活動については、カンボジア研修旅行、学校間交流会、地域の清掃活動、市内開催祭り参加 <p>■サークル活動: 有</p>																													
就職等の 状況※2	<p>■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 病院、医療施設、福祉施設等</p> <p>■就職指導内容 ・進路ガイダンス2回 ・個人面談</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>■卒業者数</td> <td>36</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>35</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>31</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率 :</td> <td>88.6</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合 :</td> <td>86.1</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>■その他 ・専門学校進学者数: 1人</p> <p>(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)</p>			■卒業者数	36			人	■就職希望者数	35	人	■就職者数	31	人	■就職率 :	88.6	%	■卒業者に占める就職者の割合 :	86.1	%	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師国家試験</td> <td>②</td> <td>36人</td> <td>36人</td> </tr> <tr> <td>保健師・助産師学校(養成所)受験資格</td> <td>①</td> <td>36人</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	看護師国家試験	②	36人	36人	保健師・助産師学校(養成所)受験資格	①
■卒業者数	36	人																																
■就職希望者数	35	人																																
■就職者数	31	人																																
■就職率 :	88.6	%																																
■卒業者に占める就職者の割合 :	86.1	%																																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																															
看護師国家試験	②	36人	36人																															
保健師・助産師学校(養成所)受験資格	①	36人	36人																															
中途退学 の現状	<p>■中途退学者 3 名 ■中退率 2.6 %</p> <p>平成28年4月1日時点において、在学者116名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者113名 (平成29年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 ・進路変更</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 ・担任による面談等のフォロー、学校行事を通してリフレッシュを図る・希望者にはスクールカウンセラーを活用し早期対応</p>																																	
経済的支援 制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>																																	
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																																	
当該学科の ホームページ URL	http://www.shimonoseki-reha.jp/																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針			
臨地実習施設における最新の知識・技術、必要とされる人材像等の意見を反映し、授業内容等の工夫を行うと共に、臨地実習施設と連携し、社会貢献できる人材の育成を目指した臨地実習の環境・実習内容・指導方法等の工夫を実施していく。			
(2) 教育課程編成委員会等の位置付け			
学校法人福岡保健学院として教育課程編成委員会を置き、学科の分科会を実施する。外部委員に加えて学科の責任者が内部委員として参加する。			
(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
平成29年5月1日現在			
名前	所 属	任期	種別
田爪 正氣	学校法人 健康科学学園	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(2)
末廣 小百合	社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
加藤 利沙	社会医療法人財団 池友会 新小文字病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
田中 比呂子	社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
羽野 琴美	社会医療法人財団 池友会 新行橋病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
島田 道子	一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
春口 幸太郎	社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
岩本 尚悟	社会医療法人財団 池友会 新小文字病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
福永 曜	社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
池田 裕一	社会医療法人財団 池友会 新行橋病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
野村 晋広	一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
林田 大輔	一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
饗場 智暁	一般社団法人 巨樹の会 下関リハビリテーション病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
佐藤 稔	株式会社 シダー (福岡県作業療法士会理事)	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(1)
穴井 翼	社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
清水 慎吾	社会医療法人財団 池友会 香椎丘リハビリテーション病院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	(3)
花田 宗久	社会医療法人財団 池友会 香椎丘リハビリテーション病院	平成29年4月1日～ 平30年3月31日(1年)	(3)
音地 亮	社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院(福岡県理学療法士会理事)	平成29年4月1日～ 平30年3月31日(1年)	(1)
山本 智子	福岡保健学院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	
淀川 めぐみ	福岡保健学院 武雄看護リハビリテーション学校	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	
田川 秀明	福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院	平成29年4月1日～ 平30年3月31日	
中村 佳奈	福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	
磯邊 恵理子	福岡保健学院 下関看護リハビリテーション学校	平成29年4月1日～ 平30年3月31日	
豊島 宇茂	福岡保健学院 八千代リハビリテーション学院	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	
野田 佳奈恵	福岡保健学院 福岡看護専門学校	平成29年4月1日～ 平30年3月31日	
諫山 沢代	福岡保健学院 福岡水巻看護助産学校	平成29年4月1日～ 平30年3月31日	
山崎 圭	福岡保健学院 武雄看護リハビリテーション学校	平成29年4月1日～ 平30年3月31日	
御幡 瞳	福岡保健学院 福岡水巻看護助産学校	平成28年4月1日～ 平30年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成28年9月8日 14:00～16:00

第2回 平成28年12月2日 14:00～16:00

第3回 平成29年3月29日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

外部委員より、臨床実習や新人教育の観点より、コミュニケーション能力や医療人としての資質に関する教育の必要性の問題が提起された。平成29年度より人関係演習の時間数を増やすとともに、臨床現場の見学や実習の機会を増やすとともに、医療福祉施設職員が授業参画することで臨床実習前に医療施設の現状を伝えるためシラバスの工夫を行った。今後は、より医療人としての資質を高めるため、看護学科・理学療法学科・作業療法学科と関係病院と連携し「チーム医療」を教授できるシステム構築を検討する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、学校と臨地実習施設とが協力して、臨地で求められる人材を育成してきた。特に実習に関しては実習施設と連携を図り、その実習で学ばせたい内容、その施設で学んでほしい内容、その施設で学べる内容を確認し、実際の看護師の実践の基礎が学べるようにしてきた。また、専門知識・技術のみでなく、看護職としての態度、特に倫理面の育成に力を入れている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1年次の実習は、看護の対象を理解するために、理論的根柢のもとに情報を収集する方法について学び、習得した基礎看護技術で日常生活の援助を実施し看護過程の一連の流れを体験する内容としている。また、看護学生としての立場と責任ある行動について学ぶ内容としている。

2年次は前半の実習は看護過程を活用し、科学的根柢に基づいた看護実践を通して対象理解を深める内容である。また、患者との人間関係の構築は深いものとなり、他職種との連携にも目を向けていく実習である。後半の実習は専門領域実習が始まり、老年期にある患者の看護、成人期の生涯にわたりセルフコントロールが必要な患者への指導、老人施設の機能と役割、加齢に伴う諸機能の変化・健康上の問題を把握し、ADLの維持・拡大、を図る内容である。

3年次はさらに専門性が高い実習となり、周手術期にある患者とその家族の理解と看護実践を学ぶ内容、超急性期にある患者。高度管理医療機器を使用する患者とその家族の理解とQOL向上に向けた看護実践を学ぶ実習、さらに、母性看護学実習として妊娠・産婦・褥婦・新生児の理解と看護、母性観・父性観を深める内容となっている。また、小児の成長発達を理解し、様々な健康レベルにある小児及び家族への看護の実践を学ぶ内容である。精神に障害をもつ患者の看護として病態像の理解はもちろん、患者一看護師関係による治療効果を高めるための援助の実際、看護師の役割を理解する内容である。さらに、統合分野では、在宅看護の実際、在宅ケアを支えるシステムを理解する実習、最終段階の統合実習では、3年間の学びを統合させ、看護実践能力について学び、看護チームの一員としての体験を通して複数受け持ち、外来診療、夜間帯での役割を学び、看護管理や継続看護など幅広い視野をもてて実習内容である。以上の実習を効果的にできるよう、事前に打ち合わせを行い、実習指導者会議で周知し、実習を行っている。実習中は、教員・実習指導者と連携して指導を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
基礎看護学実習Ⅱ	受け持ち患者への看護を通して、対象理解に努めながら一連の看護過程の展開を試み、患者に必要な基礎的看護技術を実践する。 また、看護師として必要な自覚と責任ある態度を養う。	下関医療センター 新小文字病院
成人看護学実習Ⅰ	慢性期にある患者の特徴を理解し、看護に必要な基礎知識、技術、態度を習得し、対象がセルフコントロールできるように支援する看護能力を養う。	下関医療センター 新小文字病院 新行橋病院
老年看護学実習Ⅰ	老年期にある対象の加齢変化や健康障害の特徴を理解し、看護に必要な知識、技術、態度を習得し、対象とその家族に必要な援助や支援ができる看護実践能力を養う。	下関医療センター
小児看護学実習	小児各期の成長発達を理解し、さまざまな健康レベルにある小児とその家族に対する看護が実施できる基礎的能力を養う。	下関市立幡生保育園 かねはら小児科 社会福祉法人じねんじょ
統合実習	複数受け持ち制、チーム医療、夜間実習等を経験し、実際の看護活動を学びさらに、看護管理や継続看護について学ぶ。	下関医療センター 新小文字病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

福岡保健学院就業規則・学校法人福岡保健学院研修規程に定められている内容において、年1回の中央学会への参加、年2回の地方研修への参加が規定されており、教育に関することはもちろん自分の専門性を高めるための研修に積極的に参加するよう促している。平成28年度は、看護教育関連の学会に参加し、学科会議で研修報告をし知識の共有をし、自己研鑽を促している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

日本看護学教育学会、日本看護学会-看護教育一、日本看護学校協議会学術集会、山口県立大学看護学会に参加した。参加後、職員全体に報告し、学びの共有を行っている。

(2)指導力の修得・向上のための研修等

看護学科4校合同の中央研修で毎年必ず、教育方法等の研修を受けています。また、指導力の向上に向けて、授業デザインについて、アクティブラーニングについて、パフォーマンス評価について、看護過程・看護診断の教え方など研修に参加している。看護診断や授業・演習の展開についての研修に参加している。その他では、教員養成講習会の講師や教育実習を受け入れることで自己研鑽できている。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- i. 専攻分野における学会研修会への参加 ii. 関連病院での合同学術研究会(年2回)への参加
iii. 関連病院での臨床研修への参加

②指導力の修得・向上のための研修等

- i. 教育研究大会等への参加 ii. 専攻分野の教員養成研修への参加
iii. 法人研修の中央研修への参加(必須年2回) iv. その他

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を通じ、教育活動及び学校運営を点検し、継続的に改善することで、社会の変化に対応できる学校組織を目指すとともに、情報公開により学校の透明性向上を図る。また、自己点検・自己評価、学校関係者評価を行うことで、教職員全体が学校の状況及び目標・方向性を共有することで、教育活動及び学校運営の改善を円滑に推進する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①教育理念・目的・目標・育てたい卒業生像の明確化②学生・保護者・
(2)学校運営	①事業計画の策定②運営組織・意思疎通機能の明確化③情報システ
(3)教育活動	①教育理念に沿った教育課程編成・実施方針の策定②実践教育の視
(4)学修成果	①就職率向上への努力②退学率・原級率の低減の努力③国家試験合
(5)学生支援	①学生相談及び就職相談に関する体制整備②学生生活指導及び安全
(6)教育環境	①教材及び教育環境改善の取り組み②臨地実習における環境改善の
(7)学生の受け入れ募集	①高等学校等への適切な情報提供②資格取得・就職状況等の正確な
(8)財務	①中長期的に学校の財務基盤の安定②予算・収支の妥当性③会計監
(9)法令等の遵守	①法令・設置基準等の順守と適正な運営②個人情報保護対策
(10)社会貢献・地域貢献	①学校施設を活用した社会貢献・地域貢献②学生のボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校運営におけるPDCAサイクルを確立し、質の高い教育を提供できる法人組織力を高めていく。学校関係者評価を活用した重点目標を作成し自己評価・学校関係者評価につなげていく。組織における意思決定機能の明確化、職員全体への組織の方向などの決定事項の周知の方法を明示してほしいという意見を受け、学生便覧に組織図・細則を省略せず掲載し、さらに学科会議で確実に周知するようにした。教員の研修参加の回数増加対策、現代の学生にあったシミュレーション教育方法などのとり入れの検討してほしいという意見を受け、4月の時点で研修計画を立て、学会や研修等に全職員参加するようにした。また、機会あるごとに研修を紹介し参加を促していく。また、シミュレーション教育・アクティブラーニング研修等に全員参加した。国家試験100%合格に対する対策を検討してくださいという意見を受け、学生が効率よく学べるよう学習内容と進度の評価を行い改善した。また、教員全員がカリキュラムの組み立てや位置づけ、学習内容を理解し認識し統一し、学生に関われるよう学科会議で意見交換を行い改善した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所 属	任期	種別
阿部 正剛	福岡市市議会議員	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	地域委員
新井 光男	首都大学東京	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	有識者委員
桑名 俊幸	福岡和白病院	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	企業等委員
松木 秀明	東海大学 健康科学 看護学科	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	有識者委員
山縣 みどり	社会医療法人財団池友会 福岡新水巻病院	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(3年)	企業等委員
後藤 歩	済生会二日市病院	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ 7月14日 ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <http://www.shimonoseki-reha.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校的教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校全体の教育の質の保証・向上の観点から、以下の内容をHPで情報開示を行い、学校運営の透明化を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①教育目標②育てたい卒業生像③学校の運営方針④学校の沿革及び歴史
(2)各学科等の教育	①入学定員数②カリキュラム③卒業要件(便覧)及び実績④国家試験
(3)教職員	①教員数②教職員の組織及び活動(資格、臨床実績、学会発表、社会貢献)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①カリキュラムボリュームと実践教育の概要②臨地実習体制③就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事②関連施設と連携した教育施設概要
(6)学生の生活支援	①担任制②週就職支援③スクールカウンセラー④保護者説明会⑤保健室
(7)学生納付金・修学支援	①入学金等諸経費②奨学金支援③独自の修学支援制度
(8)学校の財務	①資金収支計算書②消費収支計算書及び貸借対照表
(9)学校評価	①自己点検・自己評価結果②学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	①カンボジア研修
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.shimonoseki-reha.jp>

授業科目等の概要

下関看護リハビリテーション学校（医療専門課程看護学科）平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任			
○			論理学	物事に対する考え方や状況判断等のすべての行動の根本は、論理的判断が基礎であることを理解し、看護を展開するうえで不可欠な論理的思考を学習し、表現する力を養う。			1年前期	30	1	○		○		○		
○			情報科学	コンピューターの基本操作を学び、インターネットを活用した情報収集の仕方、情報を管理するための基本的な文書処理や数値処理の仕方を習得することを目標とする。また、医療情報を検索する能力や病院総合情報システムに対する基礎知識を養う。			1年前期	30	1	△	○	○		○		
○			物理学	看護・医療で遭遇する物理的事象を理解し、科学的なものの見方・考え方の基礎を学び、日常生活動作や援助の場面で活用できる力を養う。			1年前期	30	1	○		○		○		
○			心理学	人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、心理学の面白さを感じ、人間理解の基礎知識を養う。			1年前期	30	1	○	△	○		○		
○			成長発達論	人間のライフサイクルを理解し、各期の成長、発達の特徴、課題について学ぶ。			1年前期	30	1	○		○		○		
○			人間関係論	コミュニケーションや人間のあり方、人格発達論などを学び、自らの心の働きを理解し、他者理解のための知識を得て、自己抑制できる能力、他者との関わりについて学ぶ。			1年前期	30	1	○		○		○		
○			倫理学	人が生きることの中での価値観について考え、看護職において適切な判断ができるための基礎となる知識を学ぶ。			1年後期	15	1	○		○		○		
○			教育学	人間形成における教育の意義を学ぶ。			1年前期	15	1	○		○		○		
○			法律学	生活している人間の法的保護や基本的人権及び義務について学ぶ。			2年前期	15	1	○		○		○		
○			家族社会学	基礎集団である家族の機能や構造、また現代における家族の変動について理解し、家族の構造・機能、家族のあり方について学ぶ。			1年後期	30	1	○		○		○		
○			文化人類学	文化人類学の基礎的な知識を知り、日常の文化現象や文化の多様性を学ぶ。			2年前期	15	1	○		○		○		

○		生活科学	人間生活の基盤としての家庭生活、より良い生活環境のあり方を学ぶ。	1年前期	15	1	○		○		○		○
○		英語	看護で日常用いられる会話を通して外国語を楽しく学ぶ。	1年前期	30	1	○		○		○		○
○		解剖生理の基礎と血液・血液の循環	正常な人体の構造と機能について学ぶ。血液と血液の循環について学ぶ。	1年前期	30	1	○		○		○		○
○		呼吸・消化・排泄の解剖生理	呼吸、消化、排泄のしくみと働きについて学ぶ。	1年前期	30	1	○		○		○		○
○		筋骨格の解剖生理・内部環境調整	体の支持と運動、内臓機能の調節を学ぶ。	1年後期	30	1	○		○		○		○
○		情報受容と処理の解剖生理	情報の受理と処理、外部環境からの防御生殖・発生のしくみを学ぶ。	1年後期	30	1	○		○		○		○
○		解剖生理学総論	人間の老いのしくみと日常生活行動を人体はどういうなしくみで行っているかを学ぶ。	1年後期	30	1	○		○	○	○		○
○		栄養生化学	人体を構成している物質の役割と代謝の基礎を理解し、栄養素が身体の中でどのように利用されているのかしくみについて学ぶ。	1年前期	30	1	○		○		○		○
○		疾病の発生と病理的変化	疾病の成り立ちと身体の変化について学ぶ。	1年前期	30	1	○		○		○		○
○		呼吸器・循環器の病理学	呼吸器、循環器の病態生理・症状・検査・治療について学ぶ。	1年後期	30	1	○		○		○		○
○		消化器・造血器・アレルギー・膠原病の病理学	消化器、血液・造血器、アレルギーの病態生理・症状・検査・治療について学ぶ。	1年後期	30	1	○		○		○		○
○		脳神経・運動器・内分泌代謝の病理学	脳神経、運動器、内分泌・代謝の病態生理・症状・検査・治療について学ぶ。	1年後期	30	1	○		○		○		○
○		腎泌尿器・感覚器・生殖器の病理学	腎・泌尿器、歯口腔、眼、皮膚、耳鼻、咽喉、生殖器の病態生理・症状・検査・治療について学ぶ。	2年後期	30	1	○		○		○		○
○		微生物学	病原微生物の発症やメカニズム、感染防御機構について学ぶ。	1年後期	30	1	○		○		○		○

○		薬理学	薬物の作用機序及び薬物療法について学ぶ。	1年後期	30	1	○			○		○	
○		治療論 I (検査・放射線・麻酔・手術)	検査、放射線療法、手術療法、麻酔の基礎知識について学ぶ。	1年後期	30	1	○			○		○	
○		治療論 II (食事・運動・リハビリテーション)	食事、運動、リハビリテーション療法の基礎知識について学ぶ。	2年前期	15	1	○			○		○	
○		総合医療論	保健・医療・福祉の現状と医療倫理について学ぶ。	1年前期	30	1	○			○		○	
○		公衆衛生学 I	公衆衛生の概念とヘルスプロモーションについて学ぶ。	3年前期	15	1	○			○		○	
○		公衆衛生学 II	公衆衛生学 I で学んだ基礎知識を踏まえ地域保健福祉活動の実際を学ぶ。	3年後期	15	1	○			○		○	
○		社会福祉 I	社会保障と制度について学ぶ。	3年前期	15	1	○			○		○	
○		社会福祉 II	医療・介護保険と福祉について学ぶ。	3年後期	15	1	○			○		○	
○		関係法規	保健師助産師看護師法をはじめ、看護師に必要な看護関係法令を学ぶ。	3年後期	15	1	○			○		○	
○		看護学概論	看護の歴史的変遷と看護の対象を理解し、看護専門職の役割を学ぶ。	1年前期	30	1	○			○		○	
○		看護理論	看護の対象である人間を理解するために必要な理論を学ぶ。	1年後期	15	1	○			○		○	
○		看護コミュニケーション	看護におけるコミュニケーションの基本を学ぶ。	1年前期	15	1	○			○		○	
○		看護過程の基礎	対象の健康問題を解決するための看護の方法を学ぶ。	1年後期	30	2	○ △			○		○	
○		スクリーニングの技法	対象の健康状態を査定する意義と方法を学ぶ。	1年前期	30	1	○ △			○		○	

○		フィジカルアセスメント	患者の病態とその変化を客観的にアセスメントできる能力を学ぶ。	1年後期	15	1	○	△		○	○		
○		基礎看護技術Ⅰ	療養生活が安全・安楽・快適に送れるよう環境を整える方法を学ぶ。	1年前期	30	1	○	△		○	○		
○		基礎看護技術Ⅱ	日常生活の援助（食・排泄）について学ぶ。	1年前期	30	1	○	△		○	○		
○		基礎看護技術Ⅲ	日常生活の援助（衣・清潔・活動・睡眠・休息）について学ぶ。	1年前期	30	1	○	△		○	○		
○		基礎看護技術Ⅳ	診療の補助業務について学ぶ。	2年前期	30	1	○	△		○	○		
○		臨床看護総論	対象の症状に対する看護を学ぶ。	1年後期	30	1	○	△		○	○		
○		基礎看護学実習Ⅰ	基礎的な看護実践の援助を通して必要な知識と技術・態度を学ぶ。	1年後期	45	1				○	○	○	○
○		基礎看護学実習Ⅱ	対象の看護過程の展開をし、看護実践に必要な基本的な知識や技術および態度を学ぶ。	2年後期	90	2				○	○	○	○
○		成人看護学概論・保健	成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴と発達段階を学ぶ。	1年後期	30	1	○			○	○		
○		慢性期にある成人の看護	成人の健康障害の生活習慣病や機能障害を持ち生活する人々や、その家族への看護を学ぶ。	2年前期	30	1	○			○			○
○		急性期にある成人の看護	急性期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を知り、その家族を含めた援助を学ぶ。	2年前期	15	1	○			○			○
○		超急性期・周手術期にある成人の看護	身体侵襲の影響を大きく受ける対象の看護及び救急処置が必要な患者の看護を学ぶ。	2年後期	30	1	○			○			○
○		回復期にある成人の看護	セルフケアの促進、障害と共に生きていく対象の理解、社会復帰に向けてのリハビリテーション、保健医療福祉の連携、社会資源の活用などを学ぶ。	1年後期	15	1	○			○			○
○		終末期にある成人の看護	終末期にある対象とその家族の看護について学ぶ。	2年後期	30	1	○	△		○			○

○		成人看護学演習	健康レベルに応じた事例を用いて看護実践に必要な科学的根拠に基づく問題解決能力を学ぶ。	2年前期	30	1	△	○	○	○	○	○	
○		老年看護学概論・保健	老年期・高齢社会の特徴を知り、保健・医療・福祉について学ぶ。	1年後期	15	1	○		○	○	○		
○		高齢者の特徴と生活支援	加齢と共に生活する高齢者の日常生活の援助について学ぶ。	2年前期	30	1	○		○	○	○		
○		高齢者の疾患と看護	健康障害を持つ高齢者とその家族への看護を学ぶ。	2年前期	30	1	○		○	○	○		
○		老年看護学演習	健康レベルに応じた事例を用いて看護実践に必要な科学的根拠に基づく問題解決能力を学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	○	○	○	○	
○		小児看護学概論・保健	小児の成長発達を踏まえ、小児看護の理念と意義を学ぶ。	1年前期	15	1	○		○	○	○		
○		小児の疾患と看護	小児期に特有な健康障害とその看護について学ぶ。	2年前期	30	1	○		○	○	○	○	
○		症状のある小児の看護	小児の特性を踏まえ、症状や検査・処置時の看護を学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	○	○	○		
○		小児の経過別看護	健康のレベルに応じた小児と家族の看護について学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	○	○	○		
○		母性看護学概論・保健	母性の概念及び母性看護の意義を学ぶ。	1年後期	15	1	○		○	○	○		
○		妊娠・分娩期の看護	妊娠・分娩期における生理的变化と看護を学ぶ。	2年前期	30	1	○	△	○	○	○		
○		産褥期・新生児期の看護	産褥期・新生児期の生理と看護を学ぶ。	2年前期	30	1	○	△	○	○	○		
○		ハイリスクにある母性の看護	妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護について学ぶ。	2年後期	30	1	○		○	○	○	○	
○		精神看護学概論	精神障害の基本的な考え方を学び、精神医療の動向と看護について学ぶ。	1年後期	15	1	○		○	○	○		

○		精神保健	精神保健の考え方を学ぶ。	2年前期	30	1	○			○		○		○
○		精神疾患と看護	精神障害を持つ対象の特徴を知り、検査や治療について学ぶ。	2年前期	30	1	○			○		○		○
○		精神・神経症状と看護	精神障害を持つ対象に対する日常生活援助の方法について学ぶ。	2年通年	30	1	○	△		○	○	○	○	○
○		成人看護学実習Ⅰ	慢性期にある対象の特徴を理解し、対象がセルフコントロールできるよう支援する看護実践能力を学ぶ。	2年後期	90	2			○	○	○	○		○
○		成人看護学実習Ⅱ	周手術期にある対象とその家族への援助ができるよう看護実践能力を学ぶ。	3年前期	90	2			○	○	○	○		○
○		成人看護学実習Ⅲ	生命の危機的状況にある対象とその家族への看護について学ぶ。	3年前期	90	2			○	○	○	○		○
○		老年看護学実習Ⅰ	老年期にある対象の加齢変化や健康障害の特徴を理解し、対象とその家族に必要な援助や支援ができる看護実践能力を学ぶ。	2年後期	90	2			○	○	○	○		○
○		老年看護学実習Ⅱ	地域または施設で生活する高齢者の特徴を知り、居宅までの支援の在り方や医療・介護・福祉の連携と継続看護や地域包括ケアシステムについて学ぶ。	2年後期	90	2			○	○	○	○		○
○		小児看護学実習	小児各期の成長発達を理解し、様々な健康レベルにある小児とその家族への看護について学ぶ。	3年前期	90	2			○	○	○	○		○
○		母性看護学実習	周産期における母児の特徴を理解し、対象に応じた看護ができる基礎的能力を学ぶ。	3年前期	90	2			○	○	○	○		○
○		精神看護学実習	精神に障害のある対象への看護実践を通して、対象を取り巻く社会的支援や環境・制度について学ぶ。	2年後期	90	2			○	○	○	○		○
○		在宅看護概論	在宅看護論の概念と歴史、役割、人権と倫理を理解し、在宅看護の中での看護師の役割を学ぶ。	1年後期	15	1	○			○		○		○
○		在宅看護の機能と役割	在宅看護の対象、看護の実際、関係職種との連携、法制度について学ぶ。	2年前期	30	1	○			○		○		○
○		在宅看護の基礎技術	在宅での療養者の特徴を理解し、生活援助を行うための技術について学ぶ。	2年後期	30	1	○	△		○		○		○

○		在宅看護論演習	在宅で生活する人およびその家族の特徴を踏まえた援助を学ぶ。	2年後期	30	1	○	△		○	○		
○		看護管理	看護組織と看護管理について学ぶ。	3年前期	30	1	○			○	○	○	
○		看護研究	自己の実践した看護から課題を明らかにし、科学的根拠に基づいた看護実践であるか、研究技法を用いてまとめる。	3年後期	15	1	○			○		○	
○		国際看護・災害看護	国際看護・災害看護について基礎的知識を得る。また、災害時における看護について学ぶ。	3年前期	30	1	○	△		○		○	
○		医療安全	ヒューマンエラーに基づいた医療安全の考え方を理解し、医療を提供するために必要な安全対策の知識と考え方を学ぶ。	2年後期	15	1	○	△		○		○	
○		統合看護技術	提示した対象の情報からアセスメントし、安全・安楽・自立・個別性を考慮した援助を考え、看護実践能力を学ぶ。	3年後期	30	1	△	○		○	○		
○		在宅看護論実習	地域及び在宅においての看護活動を通して、在宅療養者及びその家族を理解し、看護の役割・機能を学ぶ。	3年後期	90	2			○	○	○	○	
○		統合看護実習	複数受け持ち制、チーム医療、夜間実習等を経験し、実際の看護活動を学ぶ。	3年後期	90	2			○	○	○	○	
合計			89 科目							3015時間(100 単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全ての授業科目の履修を認定されること。履修方法は、講義・演習・実習を履修し評価を受ける。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。